

第2回 送配電網の維持・運用費用の 負担の在り方検討WG 事務局提出資料

平成28年10月28日（金）



(参考)前回の議論の振り返り

● 第1回WGでいただいた主なご意見は以下のとおり

全般

- 託送料金は誰かの負担が軽くなれば誰かの負担が重くなることから、負担の公平性が重要であり、定量的なデータに基づいて議論を行うべき。
- 今後、利害関係者へのヒアリングなどを通じ、利害関係者の合理的な意見を十分に考慮した上で、中立的な委員が制度の在り方を議論するという進め方をすべき。
- この場の議論だけでは気づかない論点もあるかもしれないので、様々なステークホルダーの話を聴きながら議論を進めるべき。
- 将来にわたり供給力・予備力に支障を来さない仕組みが必要。
- 今後、人口減に伴い、利用が減少するネットワークをどのように維持・運用していくか、交通や他のインフラの世界において既に検討されてきたことも参考に議論を進めるべき。
- 今回の検討を進めるに当たっては、送配電網に接続する全ての利用者に公平に負担を求めることに加え、送配電網を将来にわたって維持・運用できる仕組みも必要。
- 2020年の実施を目指し、このタイミングで議論を開始するのは良いこと。広域機関で行われている将来に向けた系統整備の長期方針や連系線利用ルールの在り方などの議論の内容も踏まえ議論を進めるべき。

1 送配電網の維持・運用費用の発電事業者の負担の在り方

- 発電事業者に負担を求める場合、その水準については、最終的に需要家が負担することは変わらず、発電事業者へのインセンティブを考え、IRR等を踏まえて算定するという考え方と、負担の在り方を合わせて考えることが適当。
- 発電事業者に負担を求める場合、その水準については、IRR等を踏まえて算定するという考え方は理解できるが、発電事業者に対するインセンティブ付与と負担水準は独立して考えることができる。

2 固定費負担のリバランス

- 昨年の託送料金審査プロセスにおける旧一般電気事業者からの説明を踏まえ、特別高圧や高圧の固定費を誰が負担すべきか、という点も議論すべき。
- 継続性あるネットワークの維持・運用のために、適正な投資回収が不可欠であり、基本料金の回収率が低いという課題の解決が必要。

3 高度なネットワーク利用の推進

- 発電所の適正な立地及び効率的な系統運用の実現のため、系統混雑時の利用を調整する仕組みの導入を検討すべき。
- 今回の検討ではイノベーションの促進を妨げない制度作りという視点が重要。イノベーションの促進自体は補助金など他の政策ツールで措置すべきこと。
- 合理的で公平な負担ルールを作ることでイノベーションの促進に繋げるべき。
- どのような制度にするかで実現されるイノベーションの形も変わり、事業者の参入インセンティブにも多大な影響を与えることを踏まえ、様々なステークホルダーの意見もしっかりと聞いて議論を進めるべき。
- 下位系統に接続する電源から下位系統の需要家に供給する場合であっても、アンシラリーサービスや基幹系統を利用していることを踏まえ議論すべき。

4 送電ロスの取扱い

- 送電ロスについては、送配電事業者による調達とするのが適当。
- 送電ロスの調達については、仮に市場で調達する際に、結果として遠方の電源を調達することになり、その場合には必ずしもロス低減に繋がらない可能性がある。

(参考)今後の進め方 (全体像)

- 今年度内に基本方針、来年度詳細設計、2020年施行を目指し検討を進める
(検討状況に応じて、適宜スケジュールは見直し)

FY2016

FY2017

FY2018

FY2019

FY2020~

【基本方針策定】

・目指すべきパッケージの
方向性議論 (9/2 議論済)

・「送配電網の維持・運用費用の
負担の在り方検討WG」新設
・WGでの集中検討・議論
(月1回程度の開催を想定)

**本WGの
位置付け**

・基本方針とりまとめ・
制度設計専門会合への報告

【詳細制度設計】

・省令/GL制定
・料金算定
手法確立

※WGにて検討

実施準備
(システム改修 等)

料金
体系の
変更

本日の議論の位置付け

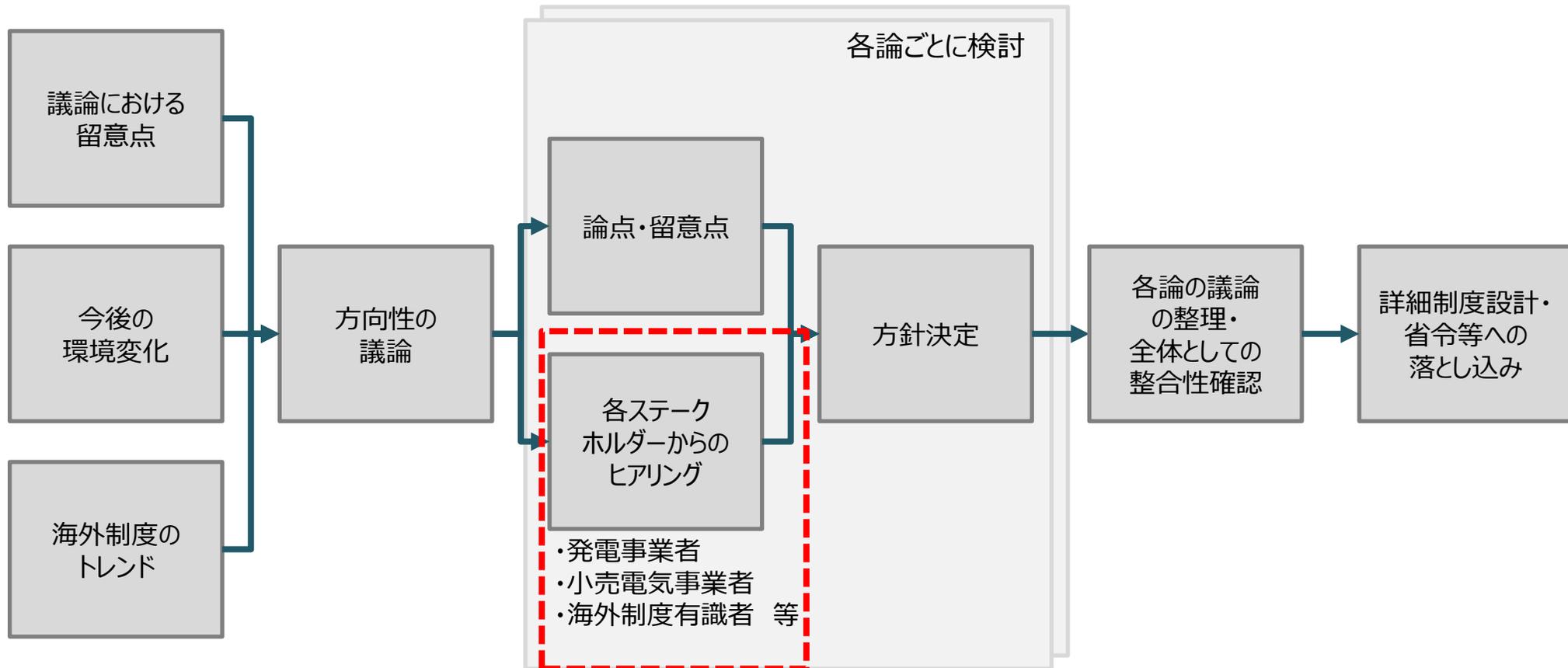
- 本日は検討の方向性及び一部の各論の対応オプションをご提示させていただく

① 検討の方向性議論

② 各論の基本方針策定(検討の方向性を踏まえて)

③ 詳細設計
(2017年度)

本日で議論いただく範囲



ヒアリング項目（案）

- 課題及び検討内容を深めるために、以下のような項目について幅広く意見を頂戴してはどうか

1

送配電網の
維持・運用費用の
発電事業者の
負担の在り方

- 発電事業者に負担を求めることの是非
- 発電事業者に求める費用の範囲、水準感
- 費用負担の単位（kW or kWh）
- 立地に応じた傾斜のロジック、ゾーン、見直しタイミング等
- 費用負担を検討する上での留意事項・対応策のアイデア
- 小売事業者向け料金の立地に応じた傾斜の是非、具体策

2

固定費負担のリバランス

- 固定費負担のリバランスの是非
- 実施する場合の固定費負担のリバランスの組合せ
- 需要家への影響、経過措置等に関するアイデア

3

高度なネットワーク
利用の推進

- 下位系統に閉じた潮流に対する託送料金上の手当の是非、是とする場合の手当の方策
- その他高度なネットワーク利用のパターン
- 上記パターンがネットワークの設備形成を効率化、負荷軽減等に貢献していることの方策、料金制度における手当の方策

4

送電ロスの取扱い

- 送電ロスの補填者（小売事業者、送配電事業者）
（現行制度のままを志向する場合）
- 費用負担等における改善のアイデア
- （送配電事業者の調達にする場合）
• 補填コストの負担者（発電事業者、小売事業者）
• 補填電力の調達コストの設定・精算方法
• 補填電力の調達方法

5

その他

- 本検討に関連したご意見・ご要望

ステークホルダーへのヒアリング先候補・ご留意いただきたいこと

- 以下のようなステークホルダーより、幅広く意見を頂戴することとしたい

	ヒアリング先	ご留意いただきたいこと
新電力	<ul style="list-style-type: none">株式会社F-Power（本日）株式会社エネット（本日）ほか、調整中	<ul style="list-style-type: none">本検討の目的を意識したご意見を頂戴したい<ul style="list-style-type: none">① 送配電網の維持・運用コストの抑制・低減② 需要家負担に係る公平性の確保③ イノベーションの推進4 論点全体に対して、整合的かつ合理的なご意見を頂戴したい
エネルギー関連企業	<ul style="list-style-type: none">調整中	
発電事業者	<ul style="list-style-type: none">調整中	
送配電事業者	<ul style="list-style-type: none">電気事業連合会ほか、調整中	
その他	<ul style="list-style-type: none">メーカーデマンドレスポンス事業者電力広域的運営推進機関	